

『虫のこどもたち』

新開孝

福音館書店（2007年6月）

虫のこどもたち



緑地は今、^{いのち}生命のエネルギーで満ち満ちています！寒い冬の間卵で過ごした虫たちは幼虫から大人になり、成虫で冬を乗り越

えた虫たちは卵を産んでその命を終え、卵から続々幼虫が生まれてきています。

チョウ、テントウムシ、オトシブミ、カメムシなどなど・・・

でも、そんな虫たちの営みをのぞき見るのはなかなか難しいものです。なにしろ、虫たちは天敵に見つかっては大変。カモフラージュの天才なのです



クヌギについてきたコクワガタ

から。

『虫のこどもたち』は、雑木林の虫

たちが卵から孵化する様子、幼虫が身を守るやり方などを美しい写真で見せてくれますが、それだけではありません。どういうポイントを見

れば、虫が今何をしているかを見つけることができるという、ていねいな解説が付いています。これを参考に、虫を見つけることができそうです。

そうそう、緑地のクヌギについていたシャチホコ



クヌギについていたシャチホコガの幼虫も出ていました。体を大きくのけぞらせて。一体どうしてこんな格好をするのか、不思議です。

写真がどれも素晴らしい。見ていると、どの虫もかわいくて、温かい気持ちに近づかれます。虫たちの写真は、新開さんが家のすぐそばの野原や林で撮ったものです。緑地でも見られる虫がいっぱいいます。

写真を楽しんだ後はぜひもう一度緑地に戻って、虫たちの世界にそっと触れてみてください。